

*****ここから『電子耕』*****

隔週刊「75歳が送る農業文化マガジン『電子耕』 第36号

--農業・健康・食・図書・人物情報--

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

2000.7.6 (木) 発行 東京・ひばりヶ丘 原田 勉

<mailto:tom@nazuna.com>

*****発行部数 1324+68部*****

<キーワード>

農業を中心として健康・食べ物・図書・人物・庶民の歴史をめぐる雑学情報を提供し、<読者の声>欄でお互いの意見交換の場を作りましょう。

<本誌記事の無断転載を禁じます、教育目的の転載も承認を求めて下さい>

投稿メールは原則として<読者の声>に掲載します。都合の悪い方は「載せないで」と明記して下さい。ペンネームの無い方は姓だけで載せますので、ご了承ください。内容は自己責任でお願いします。★字数は200～400字を標準とします。短い文章で簡潔に書く練習のつもりでお願いします。

目 次

<読者の声> なかやまさん、山島さん、田んぼのおばさん、
<舌耕のネタ> 創刊から1年、変わったこと・変わらぬこと
<農業・図書情報> 農工大日中友好会のホームページ開通は七夕
<文化情報> エッセイ「暑さも寒さも」増山博康さん

<読者の声>ここはメール交換の場です。編集者はコメントしない場合もありますがこれは、メールを無視したわけではなく、読者同士の交流にゆだねるという意味ですからご了承下さい。-----

<読者の声>

■6/22 なかやまさん、

(『電耕掲示板』

<http://www62.tcup.com/6201/tom.html?>

への投稿) 研修会に参加して:

3泊5日の健康生きがいアドバイザーの研修に参加しました。これからの

高齢化社会にいかに対処していくか勉強になりました。全国から年齢性別を問わず、あらゆる職種の人たちと楽しく有意義に話し合いが出来ました。そのなかで私が最高齢でした。パソコンをやったおかげで若い人たちとも共通の話題で盛り上がりました。

●コメント：『電耕掲示板』への投稿でしたが、こちらへ掲載させて貰いました。若い人に混じった交流もパソコンをやっていて共通の話題に盛り上がったとのこと、「健康生き甲斐」の見本のように結構でした。

=====

■6/23 山島さん、「毎日が発見」で触発されました。

65才の男性です。42年の現役勤務を昨秋終えて、正直ホッとしています。子供たちも幸せに巣立ち、夫婦で健康に、寿命まで生きようと話しています。家の周辺の田んぼにきれいに稲が植え揃いました。家内の里の応援で田植えした経験から、この風景は幾つになっても癒やしと郷愁を覚えます。

パソコンは、会社でも導入から関わっていたお蔭で少し解り、メールも家族、友人と国内外を問わずやりとりしています。

しかし、平穏無事な生活にやや飽き足りなくなったところに、先生の電子耕を通した、かくしゃくとしたご活躍を知り、またその志の高さを知って目の覚める思いでした。まして反応する諸先輩の前向きな姿勢にも驚かされます。

「舌耕のネタ」の、衆参選挙へのご意見は、私の思いを集約して見せてくださるものでした。主権者であるべき国民を、口先だけで主権者といいながら国体の君主制の神の国粋のと、忌み言葉を並べ立てて平気な政治家とそれを容認する愚直な政治家の多いこと。最もそれを「仕方なし」と見過ごす国民にも問題はあります。地方区で選ぶべき人がいなければ入れなければ良いと思いますが、せめて比例区では、凡愚の与党への対抗勢力たりうる野党を支援したいと思います。かくいう私も自民党派でしたが、ここまで危険信号が点滅しては、応援できません。

ともあれ「動かなければ変わらない」という私自身の戒語を思い出してメールしました。今後ともご指導ください。

ペンネーム「山島潤」

●コメント：まだまだ有望な将来がひらけています。「動かなければ変わらない」とは、けだし名言です。今後どうぞよろしく。

お説のように、自民党は大きな敗北でした。でも自民・公明・保守党は政権にしがみついて、相変わらず「そごう」という私企業の救済に国民の税金を使うようにしたり、自民党の元建設大臣などが受託収賄容疑で逮捕されたり、そこで第2次森内閣は建設大臣に扇保守党党首をすえるなどという波乱を含んだ組閣で出発した。国民の審判に反省した様子はありませんね。これで長続きするのでしょうか。

哲学なき首相、やる気のない内閣。自民・公明・保守党の中にも不満は鬱積していてもポスト森を狙って今は黙りを決め込んでいる。政治空白の状態が続きそうだ。沖縄サミットでまた森首相の失言が心配だ。もっともイギリスでは昔から「無能な政府のもとでは資本主義が発達する」と言われている。資本の利潤追求が激しくなれば被害を受けるのは労働者や庶民だ。傍観してはいられないと思います。どんどん発言しましょう。

=====

■6/26 田んぼのおばさん、「やっぱり農業は難しい」

6月は麦刈りと田植えのために毎日が天気予報との戦いでした。米作り5年と昨年からはじめた山梨の畑での農作業が楽しくて、友人には「これからは農業の時代よ」などと偉そうに言ってきましたがよくよく考えると何と甘い考えだったのかと反省する近頃です。日曜農民というよりもっとわがままな「行かれるときに行く」農作業。作物たちが本当に必要としている作業をしてやっているのだろうか。こちらの都合で植えたり刈り取ったり、それぞれの植物に最適の作業は天気や曜日に左右されるはずもないのに。梅雨の晴れ間に慌てて刈り取った麦の穂を少し持ち帰って見たものの、身のはいつていない穂が結構あるのを見て、すっかり自信を失っています。子供時代農作業を経験してきた友達が「農作業なんて大変なこと良くやるね」という意味が分かる気がしてきました。こちらの都合だけで動くのではない農作業を目指して、当分悪戦苦闘が続きそうです。

田んぼのおばさん

●コメント：同感です。60年も前に農業から逃げだした私です、今だに故郷に帰れないが農業を滅ぼしてはならないと、応援団に参加しています。

7月7日（金）13時から17時45分にわたって「農村女性を中心とする活動」の公開シンポジウムが四谷の主婦会館で行われます（主催は山崎農業研究所）。ぜひご参加下さい。

<舌耕のネタ> 創刊から1年、変わったこと・変わらぬこと

この『電子耕』の創刊は7月1日でした。わずか1年間でしたが私にとっても『電子耕』にとっても幸運に恵まれ、大きな変化がありました。顧みて反省のよすがとしたいと思います。

◆1、メール・マガジンがまだ珍しいときだった

無料配信サービス「まぐまぐ」の読者200万人、発行者1万人という時だったが、まだマスコミでは珍しかった。だからNHK教育テレビで取り上げるから取材に応じてくれと言ってきたのは7月2日。8月放送の予定だが「貴方はメルマガ発行人で最高齢だから」という。こちらも驚いたが朝日新聞・都内版では8月19日に「74歳がメールマガジン・若い人などの反響に驚き、未知の分野で挑戦する」という見出しで取り上げられた。

毎日新聞では8月29日全国版で「メールマガジンで広がる異世代交流・原田さん70歳からの人生」と紹介され、8月31日はNHK教育番組E TV「メールマガジン・増殖する心の小宇宙」に最高齢の原田勉として出演。9月15日は東京新聞・東京解剖図鑑に「メールマガジン最高齢74歳の発行人」という具合に取り上げられた。おかげで読者は1370人に急増しました。

つまり、マスコミの人でもまだメルマガが珍しいし、おまけに74歳という高齢者が若者に負けないで新しいことに挑戦していることがネタになったわけで、私個人が偉いことをしているわけではなかったのです。

今ではメルマガは珍しくない。むしろ1年前には考えられなかった携帯電話iモードが700万台も普及して、パソコンが無くても携帯電話でメルマガやインターネットが見れるようになった。先日も電車の中でメールを見ている人に3人も出会った。これが1、2年内には世界中に普及すると見込まれている。

変わったといえば、ネット書店も戦国時代のような競争で安く・早く書物が手に入るようになった。IT革命はどこまで進むのか、この先どうなるのだろう。メルマガをやっているとニュースに敏感になる、新聞も熱心に読む、テレビはドラマやスポーツを見るよりニュース優先になる。これが変わったところである。

◆2、命にかかわる病気の体験も記事にする

10月13日脳内出血で入院、集中治療室で考えた。ここでアウトになったらいろいろな団体や友人・読者に迷惑をかける。責任のある会計や事務局長は止めようと決意した。幸い後遺症もわずかで済み、退院してから『電子耕』も隔週にして貰った。農文協図書館はしばらく休んで、今年の1月からは隔日勤務にした。

退院してから讀んだ句は、「病みて知る 厚き情けの Eメール」などだった。「高血圧と健康体験」はブラジルの読者から日系人支援団体の会報に転載させてくれというメールが届いた。このことを「ヘルス&ケア」紙はインタビューで病床日記を<舌耕のネタ>とするあたり、転んでもただでは起きない不屈の精神と記事にしていたが、これも書くこと以外に能が無かったからでお恥ずかしい。

2月19日には日経流通新聞が先探人の欄で「74歳、メールマガジン発行、農を通じ世代交流・耕す」と紹介。業界の知人・友人からメールを貰った、若い人ばかりではない読者が増えた。

6月になったら月刊「毎日が発見」でこの人の定年後の素敵な生き方という欄で「インターネットでメールマガジンを発行する75歳の愉快生活」4ページの写真を主とした紹介記事が出た。これは67歳でパソコンをはじめてからの8年間を追って隠居してもジャーリストを続けている様子を写真で表現してくれた。これを読んで定年後の中高年の人から『電子耕』の申込が増えたが、大学4年の女子学生もいたのは驚きだった。

メール友達は老若男女、幅広くたくさんできた。読者は入れ替わりはあるだろうが、現在およそ1400人前後になっている。

◆3、メールにみる読者の反応・移り変わり

1) 自殺問題：自分の体験から「お父さん！しないで」と訴えた反響は大きかった。「涙があふれてどうしようもなかった」など20代から40代からの声があとあとまで続いた。

2) 戦争体験・自分史：発行の時期が夏だったので、敗戦当時の思い出をつづけた、その反響は中年以上の読者の共感があった。ところが、若い戦争未体験

者からは「敗戦そのとき村は」をめぐって「電耕掲示板」に投稿がつづき、中には戦争マンガの影響と見られる論争もあった。

3) 日の丸・君が代法制化：「法制化の次は何か・軍国主義の匂いがする」に賛否両論あり、そうだという意見はやはり中年以上が多かった。ここでも若いと思われる人から、異論がいろいろあったが中には「オリンピックの時もサッカーの試合の前も日の丸が掲揚され君が代が歌われる。不自然ですか？。という意見もあった。年代層の違いであろう。

しかし「それでもアジアで日の丸が嫌だと言う人が多いのになぜ法制化か」という投稿もあった。こうして読者の間で討論してお互いに調整できることも、このマガジンの役割であろう。

4) 農業・環境問題：記事が一番多いのだが、農業問題への反論・反響という形では少ない。中には大学のゼミに本文の引用をさせて貰っているというメールもある。山崎農業研究所の『世界の水田・日本の水田』の紹介をして購入して貰い『耕』の購読会員になった女性読者もある。最近の〈読者の声〉ではサラリーマンを辞めて農業で生きたいがという悩みの相談があり、数人の方がその助言になるような反応があった。

5) 健康食・遺伝子組み替え食品：健康食は喜ばれた。料理のヒントになるという声もあった。遺伝子組み換え食品には関心が多い、そのため読者になったという人が、農家・消費者ともにある。

6) 病気・健康日記：私が病気で入院したので多くの方からお見舞いのメールを頂いた。その報告のため病床日記を載せ、老人と高血圧の体験を書いたら、これが好評だった。誰でも老人になるし、病気にもなる。その失敗談は後の人の為に役立つらしい。「どうせ恥のかきついでに、老人の経験を残してみよう」と思った。

◎ 創刊当時は若い人の反応が多かったが、最近は若者より年輩の読者の声が多くなった。年代層による読者の声は次のとおりです。

- ・ 20～30の学生・若もの：農業を学びたい女性数人。祖父と仲良しで昔話を聞くのが大好き。そんな感覚で、別のおじいちゃんの話を読んでいます
- ・ 30～40代の男女：日の丸・君が代・戦争に対する意見を言いたい人。主婦も多い。比較的文章を書くのが好きなひと。

・農業をやっている・あるいは内が農家という人。公務員など勤めながらも農業が気になる人。環境・政治問題をたまには取り上げよの意見がある。

・同世代（60～70歳代）明らかに分かっている知人十数人、学者・研究者とそのOBなど。「読んでよ」「良くやってるね」「文章が長い」といわれる程度の反響。その人たちの了解を得て論文の一部を転載している例もある。

とくに「毎日が発見」誌が出てからは70歳すぎの読者が多くなった。

・海外の読者：国際ネットとまではいかないが、メールのあった人は、アメリカ・イリノイ州の女性、南米ブラジル・ポルトアレグレの日系移住者の福祉団体の女性、スウェーデンの主婦、ハワイのみやげ物屋さんなど。「まぐまぐ」の読者で日本語の通じる人たち。

以上のように1400人の読者の反響と言うが、確かな数字は分からない。あくまでもメールの反応があったという人だけです。これは「まぐまぐ」という配信組織が誰でも入れて、いつでも抜けられる。しかも無料という自由・ルーズさにあるのでしょう。これが『電子耕』1年間の報告です。

◆4、シニアの存在意味・いかに老いるか、いかに生きるか

1年経って、これから何ができるのか。今度の選挙については「残り少ない選挙のチャンスだから言いたいことを言おう」と政治についてストレートに注文をつけた。これに賛成という声もあったが、大部分は無言の賛成と受け取っていいのだろうか。それでも今後も『電子耕』は隔週発行で、残る余生を若者と交流し、老人がいかに考えているか、いかに生きるか、自ら生態観察して、自分の人生経験を後世に伝えたいと思っています。この考えは変わらない。

今年の課題は20世紀の最後の年として「近藤康男の三世紀」を完成する予定で、その一部を全農林の機関誌『農村と都市をむすぶ』

<http://www.catnet.ne.jp/zennorin/noson/nouson.html>

7月号から連載を続けています。

購読申し込み、投稿などは、noson-to-toshi@catnet.ne.jp

または、電話03-3508-4350 『農村と都市をむすぶ』編集部へ。

<農業・図書情報>農工大日中友好会のホームページの開通は七夕から

前の35号で7月から開通と予告していましたが、登録確認して6日後という通知がありまして、7月7日の七夕開通となりました。トップページの目的

と組織を簡略に紹介しています。ぜひご覧ください。

<http://jc-yuko.gr.jp/>

◎1994年8月に創設された東京農工大学中国同窓会と日本の同窓生との文化・科学技術の相互交流と友好を深めることを目的とする。そのため中国で行われる同窓会に代表団をおくり、また中国から来日する同窓生の歓迎・支援などを行う。

必要により日中友好・交流のため会合を主催し、会報を発行する。

◎東京農工大学同窓生ならびにその関係者を会員とし、入退会は自由とする。本会の目的に賛同する団体は賛助会員とすることができる。

◎会費は連絡通信費として1年2000円（学生は半額）とする。

<文化情報>この度、編集同人に加わった増山博康さんがときどきエッセイを寄稿して下さることになりました。

■隔月連載エッセイ 「寒さも、暑さも」 環境クラブ 増山 博康

初めまして。東京で、「環境クラブ」と言う団体を運営している増山と申します。

この団体の内容については、おいおい触れていくとして、日頃感じていることを、この「電子耕」の誌面を借りて、書かせて頂くことになりました。

さて、先日、地方のある養護学校の先生のご相談に乗ると言う機会がありました。

この先生の学校では、「生活習慣病」にかかった子供達をケアしながら、勉強を教えると言うことをしています。こうした子供達は、学校、学習室、病院（寮）の往復で、この先生としては、子供達の「コミュニケーション能力」の養成に腐心されているとのことでした。

そこで、この先生が注目されたのが、海外の学校と「酸性雨の共同調査」をして、インターネットで情報交換したらどうかと言うことでした。

たまたま、「環境クラブ」でも「RAIN2000／世界酸性雨測定ネットワーク」と言う企画を海外の学校に呼びかけてはじめたところでした。

そこで、この先生としては、いろいろ企画の相談に乗って欲しいと言うことで、お話しにこられたわけです。

ところで「環境クラブ」の事務所は巣鴨にあります。JR 巣鴨の駅にお迎えにあがり、商店街を歩く中で、この先生がふと「巣鴨プリズンは、この近くですか？」とお聞きになりました。

私も、先生も戦後生まれ、戦後育ちで、もちろん、BC 戦犯のことなど、本や映画でしか知りません。意外な質問にとまどいながら、「今、サンシャイン 60 と言うのになっています」とお返事したところ、「刑務所の建物をそのままに用途を変えたのですか？」と重ねて聞かれました。

「いや、そうではなくて、高層ビルが出来ていて、中には、水族館や博物館があって、若い男女が群れる場所になっている、誰も、ここにプリズンがあったなんてことは知らない」と言ったら、何か妙な表情をされました。

この時、私は、ふと思い付いて、こんなことを言いました。

『RAIN 2000』の都合で、海外の学校のホームページを観る機会が多いけれども、ヨーロッパの学校のホームページには、歴史の授業のカリキュラムに『World War One』、つまり、『第一次世界大戦』と言うのがあってびっくりさせられたんです。

考えてみると、「西部戦線異常なし」、ジャン・ギャバンの「大いなる幻影」、確か記憶違いでなければ「ジョニーは戦場に行った」など、あちらの映画には「第一次世界大戦」をテーマとしたものがあります。

猪瀬直樹さんの「ミカドの国の未来戦記」を読むと、水野さんという軍人が、第一次大戦後の欧州を視察して、「世界戦争に勝者なし」と言う認識を持つが、当時の日本国内では理解を得られなかったと言うお話が出てきます。

第一次はおろか、第二次大戦の体験も持たない世代が、日本でも欧州でも人口の過半数を占めるに至りました。自国の歴史と言っても、体験していない者は、文字や映像などの「情報」で、それを学ぶのみです。

しかし、インターネットが国の壁を越えれば越えるほど、相手の国の歴史につ

いて、相互理解が必要になるのではないのでしょうか？

ただ、ホームページの片隅にも、そうしたカリキュラムの存在を謳う学校と、プリズンの存在すら忘れられた都会の喧騒、このギャップを「戦争を知らない」私と先生が語り合う昼的一幕でした。(続く)

(RAIN2000 については、

<http://www.netlaputa.ne.jp/~ecoken/Rain/>

をご覧ください。)

★7月20日・横浜で、『酸性雨測定スクール』を開催します。

身近に環境問題にご関心のある外国人の方がいらっしゃったら、是非お奨め下さい。留学生歓迎！

「環境クラブ」

<http://www.netlaputa.ne.jp/~ecoken/index.html>

— P R —

■■■■

劇団文化座 第112回公演

■■■□

作・演出 水上勉 出演 佐々木愛

■■□□

愛、掬えども掬えども、男と女の山峡に、悲の雪はふるふる

■□□□

『越後つついし親不知一ひとり芝居』

□□□□

公演期間 10月15日(日)～10月22日(日) 会場 文化座アトリエ

□□□□

料金 5000円(税別) 8月初旬前売開始 劇団にて先行予約受付中

<http://bunkaza.com/>

— P R —

●メール送付の際のご注意案内↓

<http://nazuna.com/tom/denshico.html#mail>

■山崎農研発行の書籍のご案内

http://www.taiyo-c.co.jp/yamazaki/yama_books.htm

●協力をいただいているサイト紹介コーナー

「農文協ルーラルネット」

<http://www.ruralnet.or.jp/>

「山崎農業研究所」

http://www.taiyo-c.co.jp/yamazaki/yama_frame.htm

「劇団文化座」

<http://bunkaza.com/>

「75歳の伝記ライター 原田 勉」ホームページ制作管理

internet SOHO なずなコム

<http://nazuna.com/>

ここまで読んでいただきありがとうございました。

■ご意見・ご感想は、Eメール

<mailto:tom@nazuna.com>

または、電耕掲示板

<http://www62.tcup.com/6201/tom.html?>

までお願いします。

『電子耕』は、2つのルートで配送しております。

『まぐまぐ(ID=14872)』

<http://www.mag2.com/>

『Macky !(ID=1283)』

<http://macky.nifty.com/>

SPECIAL THANKS to INTERNET JAH

<http://www.jah.ne.jp/>

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「75歳が送る農業文化マガジン『電子耕』」 第36号

--農業・健康・食・図書・人物情報--

バックナンバー・購読申し込み/解除案内

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

2000.7.6 (木) 発行

東京・ひばりヶ丘 原田 勉

mailto:tom@nazuna.com

*****発行部数 1324+68 部*****ここまで『電子耕』*****